



扶桑皇統記圖會

前編

一

遠日
2505
13-1



遠
2505
卷一/13



枝桑皇統記圖會叙

古くは世々の帝。史官を朝廷に置
給ひ。君臣の得失及び治亂興廢を
記し更なる遠なる國を任む人の善惡
を始末し。奇事怪談を云ふ人ども漏れ
なく記す。後の世に則して治亂興廢
傳ふ。我故人の世に美名を一代に傳ふ



浪華好萃堂主人著編
同柳齋重春先生画圖

扶桑皇統記圖會

前編
全六冊

愛知書肆 松屋書店藏

蹟々ありて或は奸邪倭寇の徒負烈
 其操を以て婦人の傳を解人の口で傳へし
 いはれざるに姑説を世に運ばり微細か
 記しめて皇統記圖會を以て書おの事
 實に於ては國史を以てしめしめし
 國史ありては野史を以てしめしめし
 採りては史の史を以てしめしめし海士海女

其 馬代ののの 大長
 意ののの 意ののの
 意ののの 意ののの
 意ののの 意ののの
 意ののの 意ののの

皇統記圖會前編一
 江都
 永享金水謹識

永享金水謹識
 印

地出醴泉
 是順之
 實斯人
 孝順
 皇上盍恤呈彼
 祥致此祿秩辭在
 易象天祐之吉



孝子
 小佐次

贊曰
 道德全者
 鬼神不得
 而窺矣
 役君神異
 可謂不測
 者焉



後鬼

前鬼

役小角

贊曰

遊唐國才爽敵
相本朝踰貴職
宮掖允穢斯滌
齊狄梁公奇績

仲磨
亡靈



前右大臣吉備與備

帝諱阿閉又曰
高野聖武之

孝謙天皇

御子母皇
后不比等

之女也嬖

藤原

仲磨

及

道鏡

雖有孀行之譏

詔令天下家

藏孝經一本明孝道

斯可觀



弓削道鏡

皇統記卷之四十一

如法女狀
 勝天丈夫
 父為所諧
 祝發入無
 性無世
 樂
 心信浮圓
 化危一偈
 不知返証

中將姫



皇統記圖繪列傳

帝及廢太子
 孫孫弗繼後
 有左而為右
 宰員外帥
 天平室中八年
 復去官

横佩豊成公

松久



皇統記圖繪列傳

扶桑皇統記圖會前編五卷總標目

第一卷

天武天皇御治世
 持統天皇御即位
 草壁王の御所水田江守忍び入の圖
 持統天皇御即位并御詠歌御讓位條
 役行者流罪神變條
 役行者關基大嶺
 得前生劍杵事
 官吏討手小向ふ行者雲中飛行の圖
 入寂火葬盤腸の條
 釋道照与龍神鑑
 文武天皇崩御の事
 從武藏國獻始銅條
 日本走難起源
 元明天皇御即位
 山城國稻荷勸請の事
 平城都遷幸
 從近江獻靈龜條
 元正天皇御即位

從對馬國始獻銀條

從對馬國始獻銀條

從對馬國始獻銀條

從對馬國始獻銀條

從對馬國始獻銀條

從對馬國始獻銀條

第二卷

金鳥王兎集と得ん為仲磨入唐の詔の圖
 安倍仲磨入唐 安部好根奸計之條
 養老淹涌出
 孝子養老の淹と汲むの圖
 仲磨留學于唐土
 於高樓餓死詠歌の事
 安祿山等小欺りして仲磨樓上小餓死する圖
 聖武天皇御受禪
 滿月九主從討好根條
 滿月九母の仇安倍好根と討圖
 江南子母錢の事
 仲磨靈鬼于吉備公語旧怨條
 滿月九呈吉備公血書
 吉備大臣入唐
 吉備公鴻臚館少て仲磨が灵小の圖
 唐帝与群臣評議
 吉備大臣与玄東圍碁
 玄東妻諫良人條
 隆昌女隱黒石吉備公仁恕事

仲磨妻貞死之條

於高樓餓死詠歌の事

於高樓餓死詠歌の事

於高樓餓死詠歌の事

於高樓餓死詠歌の事

於高樓餓死詠歌の事

吉備公与女東棋と圍るの圖

第三卷

吉備公讀野馬臺詩

長谷觀音利益の條

吉備公野馬臺の詩と讀むの圖

佛坐巖出現事

和初瀬觀音由來

仲磨靈救吉備公危急條

安祿山謀害吉備公

近江の湖水へ灵木流と來はの圖

隆昌女恩小因て吉備公と救ふ圖

衣通姫人磨傳

王津島明神勸請

大伴小與報主仇事

長屋王讒死

吉備大臣与廣成等帰朝

大伴小與乞巧と成て漆部君足と討圖

始痘瘡流行事

聖武帝光明子宮御幸

廣嗣憤灵救玄昉條

舍人親王薨去

玄昉筑紫小至て廣嗣が灵小命を預す圖

第四卷

鑄大佛銅像

良辨僧正の傳

良辨僧正如と大鷲小攫るの圖

近刃石山寺建立

從奥刃始献黄金條

石山小良辨釣る翁小の圖

聖武天皇崩御

惠美押勝誇君寵事

押勝君の寵小誇て百官有司と謾は圖

感夢相心太后儲浴湯

改鑄新錢條

弓削道鏡朝恩小蒙マ禮讓と瘵する圖

新帝次路於謫所崩

惠美押勝滅亡の事

道鏡の内命と受清曆と害せん

神灵路上救危難忠臣事

光仁天皇御即位

道鏡於配所餓死條

第五卷 上下有

五上

横佩大臣初瀬初子

中將姫誕生々立條

右大臣東園の桃と愛し花の宴の圖

豊成迎後妻

繼母奸計諛中將姫條

繼母毒計害却實子

再度奸計中將姫陷巧事

繼子と殺さんとて却て實子と毒殺するの圖

松井嘉兵太与國岡謀義 將監苦忠助中將姫

嘉兵太中將姫が讀經を聴く善心小るの圖

横佩大臣狩獵雲雀山 豊成於山中遇中將姫條

豊成公雲雀山小狩して中將姫小遭るの圖

中將姫於雷麻寺得道 感得蓮曼茶羅條

繼母の怨灵毒蛇とる姫の化度小より成佛するの圖

通計六十二條總目錄畢

五下

扶桑皇統記圖會前編卷之臺目錄

天武天皇御治世

從對州國始獻銀條

持統天皇御即位

大津皇子隱謀自殺支

草壁王の御所小水田江守忍び入は圖

持統天皇御即位 皇御詠歌御讓位條

文武天皇御即位 役行者沓罪神寢條

役行者開基大嶺 得前世劍杵事

官吏討手小むる行者雲中飛行の圖

釋道照与龍神鑑

日本追儼起源

元明天皇御即位

平城都遷幸

元正天皇御即位

金鳥王免集と得ん為仲磨入唐の詔の圖

安倍仲磨入唐

入寂火葬盤鴈の條

文武天皇崩御

從武藏國獻始銅條

山城國稻荷勸請の支

從近江國獻靈龜條

安倍好根好計の條

目錄終

扶桑皇統記圖會前編卷之壹

浪華 好華堂野亭參考

天武天皇御治世

從對馬國始獻銀條

夫世界萬國君有さる事なく各政道以建民を治といふも數其

命と革し就中震具聖賢禮樂の國と稱をれも其王の子孫永世相

續とる更能す周八百年小と七ひ漢四百年小と其統絶る況其

より後世亦及て益篡奪相嗣與廢極りか唯吾大日本の皇國乃

万邦小勝とて神代小 天照皇太神業を創め統と垂ゆいより以未

人皇亦及ても連綿とて正統と革り更なる実亦万代不易の君子國と申

至る然も國小治乱ある人小疾病有るがごとく皇國といふも猶治乱無く能

始の御名と大海人王とやなり。天性聰明敏智ふましく。神明と敬ひ佛陀と
 するも文と重んず武を好まむのひんれ。天智帝も天下と治むる吾らもと知食
 皇子大友皇子とさうたれ。御弟大海人王と皇太子とどまのひんれ。然も大友
 皇子は是と嗚のひ倭臣の勸小任せ法自之の望と起され。叔父大海人親
 王と弑害せんと企めひ小親王其搦と察し疾も吉野へ入せのひて其難と
 避むひ潜小緒皇子と俱小東國へ下向す。軍勢と召募て都へ攻上りのひ
 大友皇子と御一戦あり。小聖運芽出度京軍戦へ毎小敗績し終小粟津
 乃戦ひ小大友皇子躬劍小伏て亡びのひれ親王群臣の乞小任せ人皇四代
 の室祚小登のひ阿閉皇女後小地 統天皇と以く皇后と。皇子草壁皇子と春宮小
 立のひたり。後ハ四海天皇の聖徳小伏し万民太平と緬ひるる小独九州豊
 後の大伴真鳥の己が逆威と逞き。たけけりも天位と篡奪せんと隠

謀と企めども是又官軍と差向られ一戦小真鳥と伐亡し兵乱頃小鎮ま
 り。君宸襟を安んずのひ倍仁政を四海小布施し是も依りハ
 嶋の外まで能治り靡ぬ艸木もたけ戸ぬ御代とたり。異邦の三韓より
 も貢物と献りて御即位と賀しむる。仁君の御徳と國土の祇も
 感のひん白鳳三年三月對馬國より始て銀を献り。是日本小白銀
 と産する始たり。天皇御感淺く。對馬國司大國と小錦下位小任のひ
 多くの禄と賜り。献る處の銀小緒社の神祇小捧り。是日三年始り六月後と
 行ひ。是夏越枝の起源たり。又此御宇小踏歌の即會始り五節の舞も
 恒例とたれり。其外緒社の祭も此御代より始る者多し。朝廷の法度も品々
 定り。天皇猶も天下安全の祈の為とて江州坂本の知小大宮の

持統天皇御即位 大津皇子隱謀自殺事

宝劍熱田入御すして後帝の御怒少々忘りて休ふんえさせりて太子
子白皇后と首と。滿朝の人々頼母々思ひ懐ひ多ふ。八月の末より又重を
のひ医官の良方寺社の加持祈禱も其強と奏せむ。九月の首領より御怒類
小逼せむひもれむ帝も今斯とと思食皇后と御枕頭小招うせむひ朕先帝
の詔命と奉りて帝位と嗣菲薄の徳とて紫宮の尊れ安居とす。更十
五年常小戦々兢とて万機の政務過ちまらん。更と恐れき。然ふ今とてふ
天數尽て九泉小赴んとす。太子の年若と朝政と委ばし依て御身皆王
位と嗣と政務と執臣下と極肩直と舉曲る。成作け万民と子の如く恤と賞ハ
重々一尉ハ輕々。世成安寧小治り又勢々忘りり。更あれと御遺勅あると
終ふ朱鳥元年九月中旬飛鳥宮ふて山明御なりひたり。御在位十五年宝

算六十五歳とて中へ皇后太子諸皇子月御雲客緒司ふいさる迄深き
悲歎小沈々れも斯て有果をえあれむ尊骸と収めり御送葬乃儀
式を綱大和國高市郡檜隈の大内の陵小葬りたり。斯て滿朝の白皇子群
臣諒闇小筆リたり。天下一日も君を念ふ叶ふとて御遺勅小任せ白皇后を四
十一代の帝位小即ちり。持統天皇とや此君かり。御諱ハ高天原廣野姫天
智天皇弟二の皇女とて在せり。然も諒闇の中をれを御即位の大禮ハ執行れ
む。及小政と預るる方々かり。此君ハ女儀あが智才衆小勝と御心雄々
し。壬申の兵乱小先帝小從ひ東國へ下り。軍中の更と捕め更
々々。乱治りて天武帝御即位在。後も政と常小捕り。故小先
帝宝作と嗣。一の御遺勅有。然も此君敢々帝位と望。五
々と諒闇の畢と待て春宮草壁親王小登極と勸んと思食々々小

忽ちつゝた騒動出来たり其根を尋るふ草壁親王の別腹の御弟小
 大津皇子とて執りたるが天性才智秀るの幼年より学問を好みて御
 成長ふ順ひ学業進み博識の由え高き壬申の乱お亡びのひ一
 子とも御学友にて文と屬り詩と作り更大友皇子小劣るを加之
 む力普通の者より強き馬術小達し弓矢物取ても歴々の武士小勝
 りのひたれ先帝も深く其才藝を愛し御世嗣の太子ゆゑたまはり
 思召るも艸壁皇子八兄と申后腹小生れぬ大津皇子と太子小立のふ
 更叶各もむと艸壁皇子を太子とまじり大津皇子は又帝の御寵愛深きを
 以て内心小我と太子小立らるる所と空頼て居るひ小早壁皇子は太子
 の宣旨下りたるを大津望と矢ひひ内々不平の思懐れぬ時其頃行
 心とい僧ありえ新羅國の産す博學ある上天文ト室の術小達せし以

緒人深然重ん大津皇子も思召所すます小早平日小行心と招た近親
 侍文の對ふかひの更小觸て世成怨の自色とあふれ多行心早
 く皇子の意中小王位の望ある更と推量り皇子小使ひて曰く君乃御
 相見を見よもふ大津貴れ御相お更小人臣の相おあをぬぬ今臣下の
 列小加りの六恐るる天の配する所小背りり君人臣小下り春秋とあり
 りの御短命や或不虞の禍を蒙りて天壽と望ひぬを是天の配する
 所小背り故なり先帝も聖智の君おて在せりと承り流石相法小ハ
 疎かり君と春宮小立ぬるも柔弱妻病の艸壁皇子と太子小立のひ
 を恐るる智者の二失小御一生の御過かり飽まふ倭弁とふひ阿使れ
 むさめぬ小船とて時と登極の望をます大津皇子行心と結結とやふ
 て大津心動れを低て仰るる實を先考れと世嗣の位小立ぬるの慮す

すくねも。后腹きんぐらとひあつ兄あにたれたれ群臣ぐんしんの奏そうとるとる任まうせせ艸壁そうへき皇子みこふ世嗣よつだの宣旨せんしと
 下くだししひひひひめてめて敢あへ又また帝ていの御祭みまつりああるる唯ただ丸まるが不運ふうんとといいふふののことこと仰おほささるる小
 と行心こころ膝ひざを進すすめめたたを何なにと大事だいじと思おもははるる今いま先帝せんてい崩御むしやうすすりり皇こう后こう
 及およ小政せうせいと関かんりりもも御即位ごごとうああるるととししああののいいひひを願ねがふふああるる時ときなりなり此こゝ時とき
 と失うしひひひひああむむ帝位ていゐ定さだりり後悔ごごい胸むねとと嚙くはむむもも其その甲斐かひいいままとと只ただ出でるる俣は
 ああららげげややぬぬ隠謀いんぼうとと勸すすめめ進すすせせるる噫あゝ利りのの邦家やうかを覆くさせせととは是等こゝろ乃なり
 更さらとと智ちななるる大津おほつ皇子みこ八行はちぎょう心こころ信言しんげんふ愈い不ふ良りやうの御心みこころ慕つめりり突げもも思おも
 召め是こゝろより行心こころいいちち腹心はらこころの家臣けしんと集あつめてめて隠謀いんぼうの密みつ談だんををかかりり人ひと去されれと艸
 壁親王へきしんおうと害がせんんと水田みづのた江守えしうと忍しのびびの名人なひん小密せうみつ針はりをを言い合あははれれ江守
 素もとりり武術ぶじゆつ鍛煉たんれんの嗚呼あゝの者もの由よし皇子みこの命いのち小従せうじゆひひ暗夜あんや潜ひそみみ艸壁そうへき皇子みこ乃
 御所ごしよ忍しのびび行ぎやう大膽だいたんもも堀ほりと兼かね起おこ兼かねてて案内あんない知ちつつ地ぢ小拔せうはく足あしとと御寢殿ごしんぜん乃

坪つらの内うちふ入身ひらみと潜ひそみみてて窺うかがひひるる小艸壁親王せうせきしんおうの鷹たか鳥とり犬いぬ小猛せうまう丸まると号なづけけ御愛おのい天てん
 江守えしうと見みてて怪あやししむむ各おののの忍しのちち吠わいとと吼うてて進すすむむよりよりるる小江守せうえしうああるる者ものああれれ
 太刀たちと拔はききももんんせせとと飛とりりとと犬いぬの首くびと水みづも溜たまむむと殺ころせせととお落おちりりもも其その首くび
 吠わいららりりて江守えしうが太刀たち持もちるる二ふたの腕うで小岸破せがひやぶと咬くは付つけけ江守えしう大おほ小猛せうまうた急きゆう小搜せうそう
 手て捨すててととされれも強つよく嚙くは付つけけたた敢あてて離はなれれ痛いたみみ骨ほね小徴せうてうてて堪たががるる左ひだり右みぎとと
 岡おか著ちやくるる内親王うちしんおうの直宿ちやくしゆくの近習きんじゆ小猛せうまう丸まるが平日へいじつ小変せうへんりりて啼な吠わいをを出ですすわわ
 盜賊たうさくなんなんの潜ひそみみ入いりりややと四五人しごふにん手燭てしやくと燈あかり一ひと爰こゝ彼所こゝと見廻みまわりりるる小坪内せうのちうち小怪せうかいき
 曲まがりり覆くさせせ面めんををよよ腕うで小嚙せうくは付つけけるる犬いぬの首くびと引放ひきはなすすととままてて居ゐるると見付みつけ大おほ小
 強つよれれ須す鷲じゆとと比ひ度ひだふふららりり忽とちち搦捕なつとられれ大おほの首くびああれれと離はなれれ地ぢ上じやうへ
 落おちりり近習きんじゆ小江守せうえしうと取巻とりまき何なに者もの也なりと先覆せんぷく面めんををとと燭しやくとと付つけ面めん体たいとと人
 とむとむ怨うらみみあるる大津おほつ皇子みこの家いへ士しかれれ甚しどど不審ふしん何なにのの為ため此こゝ御所ごしよへ忍しのびび入いりりとと百



水田五守

竹壁王の
 御所よ
 忍びて江守
 狗の頭と
 斬る



般不糾同（いんせん）も言も白状（はくじょう）せざらんれば、専（せん）て武士の手（たけ）に。骨と柱（ほねとはしら）で強（つよ）く
跨（か）問（もん）をせられ、江守（えのり）も苦痛（くるしみ）不堪（たが）。遂（つひ）に大津皇子の御頼（ごのたの）小（こ）。艸（くさ）
壁親王（かきのせいおう）と弑（ころ）し、もん為忍入（しのびいり）、由（よし）と白状（はくじょう）し、多（おほ）ぶ。皆（みな）ち驚（おどろ）た其旨（そのむね）と太
子言上（みこごたまへ）し、艸壁親王（くさかきのせいおう）も以（もつ）の外（ほか）殊（こと）せ、御兄弟（ごのまがらひ）の御更（ごのまがらひ）か、筆（ひら）用（もち）小
らぬ大更（おほ）なれ、先曲者（まづまがらひ）、嚴（まじ）く禁獄（きんごく）を、御参内（ごのまゐり）ありて、大津皇子（おほつづのみこ）陽謀（やうぼう）
成（な）企（こ）ら、由（よし）奏聞（そうもん）志（し）ひ、皇后（こうごう）も御發（ごのつか）大方（おほ）あり、時の執政（しうてい）高市王（たかちのき）小此
義如何（ぎにいか）を、命（いのち）と問（と）ふ。高市王（たかちのき）の御兄弟（ごのまがらひ）の更（まがらひ）か、理（ことわり）う、大罪（おほ）なれ、
置（お）置（お）ん、先（まづ）く召寄（めいよ）て、実否（まこと）と糾問（きうもん）を、命（いのち）と奏（そう）す。是（こゝ）より、兩時（りうじ）
小右司（こゝし）の廳（たう）へ大津皇子（おほつづのみこ）と召捕（めいと）き、命（いのち）と命（いのち）と、是（こゝ）に依（よ）り、右司（ゐし）の武士（ぶし）大津
皇子（みこ）の館（たて）と取囲（とりこも）り、朝廷（てうてい）より御不審（ごふしん）の條（じょう）有（あ）り、急（いそ）召（めい）す、由（よし）中（な）入（い）れ、皇子（みこ）は
ゆひく大罪（おほ）なれ、命（いのち）と命（いのち）と、借（か）刺客（しやくかく）の密謀（ひそぼう）早（はや）も露頭（ろづ）せ、命（いのち）と命（いのち）と、是（こゝ）に依（よ）り、

辱（おとし）と蒙（か）るん、ゆゑに船刃（ふねや）伏（ふ）せ、死（し）し。后妃（こうひ）山邊（やまのへ）皇女（みかみ）も、はく刃（や）り
貫（くわ）れ、殉死（じゆんし）し。ゆゑに館（たて）の強動（きやうどう）り、斗（た）か、母（はは）の局女（きよく）房（ふ）達（た）は、
叫（こゝろ）ひ、男子（おとこ）の輩（たぐひ）館（たて）へ、火（ひ）をけん、征兵（せいへい）を、封（ふう）せ、と評議（ひやうぎ）區（く）り、て決（けつ）せ、云（い）申（ま）せ、
多（おほ）れ、族（うぢ）八身（やちん）と通（と）せん、周障（しうじやう）、有司（ゐし）の武士（ぶし）小皇子（こゝし）御夫婦（ごのまがらひ）己（おの）れ、自害（じがい）す、
是（こゝ）に依（よ）り、折（お）折（お）き、館（たて）へ、近習（きんじゆ）外（ほか）様（さま）の士（し）下部（しも）に、近（きん）習（じゆ）、搦捕（な）右司（ゐし）の
廳（たう）へ、専（せん）て、高市王（たかちのき）大津皇子（おほつづのみこ）御夫婦（ごのまがらひ）自（おの）れ、命（いのち）と命（いのち）と、依（よ）り、御内（ごのち）の者（もの）も、残（のこ）
む、搦捕（な）右司（ゐし）の言（こと）、高市王（たかちのき）即（すなは）ち召捕（めいと）し、皇子（みこ）の近習（きんじゆ）と、糾明（きうめい）せ、
小皆（こみな）彼（か）僧（そう）行（ぎやう）心（しん）が、謀殺（ぼうせつ）と、勸（すす）め、由（よし）と白状（はくじょう）し、依（よ）り、緒（いと）方（かた）と尋（たず）せ、遂（つひ）
小行（こぎやう）心（しん）も、搦捕（な）右司（ゐし）も、嚴（まじ）く跨（か）問（もん）を、始（はじめ）に、命（いのち）と命（いのち）と、呵責（かせつ）度（た）重（おも）りて、
遂（つひ）に、明白（めい）白（はく）状（じょう）せ、又（また）行（ぎやう）心（しん）及（およ）び、隱謀（いんぼう）不（ふ）荷（か）擔（たん）せ、武士（ぶし）水田（みづのた）江守（えのり）と、俱（とも）に、以上
九人（く）死刑（しうぎ）、行（ぎやう）心（しん）其餘（そのあ）の者（もの）、御咎（ごのとが）か、男女（おとこ）も、追放（おひ）し、一件（い）件（けん）落（お）著（ちやう）す、

愚あるる大津皇子眼前大友皇子の亡ひのいへと見あが。前車の覆るる
穢を忘るは妖僧の妄言を惑ひて多に隠謀を企非命の死となり不良の
悪名を残りしより更自才茂持ての御過あが惜るるを御更かりり

持統天皇御即位 元御詠歌御讓位條

白皇后万機の政を関りひてり。高市王と万事御商議有る三綱五常の
道と平普く天下小仁政を布絶しめい鯨寡孤独の窮民も米粟を賜ひ
貧乏を憐れ老残恤しめいひるるふど其仁徳異國をも隠れ。二年の春新羅の
聘使来朝して數多の貢物を獻じ。春平と賀し奉りける。皇后御歡あめ
あふと使者と重く饗應し種々の引出物と賜りて帰國せしめり。此正月小
始り御杖と獻じ是卯杖の推輿なり。又女の化粧白粉と用る更中此御宇よ
り始りり。時其年の七月大友早魘して青稻炎暑の為枯凋農民大に

困る其年ハ甚と稔薄りるれが皇后大に憂ひし是我不徳のなまを所あり
とて其年の年貢と半中じ。半減めて納むるを觸させしめり。天下の
農民大に悦び感涙を流して都の方を拜せぬかりり。斯く三年の夏の頃
春宮艸壁皇子御不例ありしせめいひるる。医業功を奏せんと終小四月下旬小
薨じのひたり。御壽二十八才なり。皇后もめ群臣大に歎き惜しむるも。甲斐
ふれば御送葬の禮と重りて葬せしむる。四年正月緒御銜議ありて皇
太子薨去しひて日嗣の君やまき守とて皇后御即位と強て勧めりり
かへ已更と得りり。遂に宝位小即の儀大禮成執行せしめいれ公卿百寮の
臣下大に依ひ拜賀して万歳と唱る。天皇由御満足す。天下小大赦を
行ひし。民の八十才以上の老人米粟を賜り。借高市王と太上大臣お任しめい
朝政を執せし。其後天皇群臣と召れて難と太子お立ぬれと勅問せしめ

緒臣下各其身の所縁ある皇子方と勸て評議更一決せざる所小眞野
 王と人位階を進出列位の勸すまゝ所皆公論小非と現小先太子の
 脚子珂瑠王在せり是とて王家の脚正統なり此君をき置余の皇子を
 太子小勸らるゝ嫡を棄庶と取の僻論なり最天智天皇脚子の大友皇子
 とすれん脚弟天武天皇小立太子の宣上且と下しめい大友皇子の天下と治めしを
 れ苦小あつさると知食賢と奉不肖を捨め聖智あて常例と志は固の本
 成定むる嫡庶の分を明小さるより善なりと。理非を正してやれんは天皇
 史食て葛野王の論と理小合りと賞しめい高市王も確論なりとやさる小
 と遂小一決して珂瑠王と太子おと定めりひさる斯く朝廷の群臣小俸禄と
 増加りひ。皇女と是より内親王と称とをれと紹あり又命婦小位を
 授け又官の位小進等の更也此脚字より始りひさる。は八年小高市郡小

宮造なりゆひて脚遷都あり是と藤原の宮と号しめ天皇あり時皇の
 らめ樓より十市郡なる香具山とみあすのふ小白た衣服とまゝ乾し
 あれ何ぞと女官小問せよ。今夏の首小ひ。彼山の辺の賤の家小更衣
 せんとて衣服と干侍らふやいんとや上れん天皇與いせのひて
 春まゝて夏はまぬい白妙の衣あせと天乃香具山
 と脚製あをい々々。此脚歌万葉集あ入こ古今集あ入れも古今小
 と収い釣違い不審のより人もある猶尋いれと。去程小春と立
 秋と暮る。珂瑠太子早十六才小なせめい天性温順果和ふい。又脚
 秀乃才小博い和漢の書典小通い神と敬い佛と尊い明君あいてせ
 のひ多れむ天皇脚欣悦いして。はひ小太子い宝位と讓いらせめい脚即位の
 大禮い嚴重小執行いは是い依いて百官百司拜賀いとて万歳と唱いけり

文武天皇即位

役行者流罪神変條

珂瑠太子己小四十二代の帝位不即せし是故文武天皇とすなる御鐸天
 之真宗豊脚父草壁皇子脚母天智帝の皇女なり。持統天皇乃御孫
 てましくせむ天皇殊更小鍾愛の藤原淡海公の女宮子媛とす其頃
 天下小雙もれ美人の宮え有れを則ち入ませし以て白王后とすのひたり。帝余
 小脚若年あれども智徳兼備し明君なる上高市王是と補佐しなると
 専ら四海小仁政を施しぬ。八嶋の果やても浪風とす。万民腹鼓を拍く
 太平とぞ鑑ひたり。帝先帝持小太上天皇の尊号と奉る。吾朝太上天皇
 乃始なり。時小文武天皇即位二年の夏大旱。五穀枯れ。泉も川
 も水涸れ。万民大困窮。帝是と憂ひ歎せし。朕不肖の身を
 以て十善の帝位と汚し事と。天神地祇の咎めり。史記も夏禹王

乃世小大旱魃せし。禹王自ら雨を祈ん。薪と積で祈雨の檀と。其上へ
 登りて天小向ひ自ら罪と等し。若雨を下しぬ。小を至所小焼死せんと。己小
 薪小火とけられ。忽ち大雨降。赤土と潤し。民の患ひと救ひぬ。いとど
 朕是小做ひ身の罪と。然と雨と祈ん。詔し。小禁廷の大庭小檀と。殺させて
 天皇沐浴齋戒なり。小浄衣と著て檀。登りぬ。焼が如き。炎日小照。照然れ
 ぬ。一心不乱。雨を祈せし。と難有き。是小依公卿百官も。檀下の四方乃大地
 小平伏。俱小雨と祈り。斯て帝烟祈。去り。更三日小及び。高天も
 聖徳と感納し。ぬ。三日目の申。刺過り。忽ち。密雲四方の山より起。く
 一天小亮。く。地。沛然と。大雨盆と傾。如降。出。く。帝大。小始む
 せ。天地四方と拜し。壇と下り。宮中。小入。脚。た。く。三公九卿及び百
 司百官雀躍。して。万歳と唱。勇悦。と。限。去。程。小膏。雨降。更三日。三夜

降通一々六拈多稻青くとなり其余田畠の作物蔓物田より池泉
川も水元満く多ふど。緒國の人民大子怡ひ是吾大君の御恤少く斯
甘露ふ等れ雨降我徒り飢渴と救ひのり。帝徳と感拜く勇
踊らざる者八たり。其年の秋ハ五穀とも稔多く万民大に富多。今
帝の御徳小より処たり。月三年役の小角と有髪の驗者と伊豆國(流刑
みぢきん)抑役小角と中、大和國葛城よの郡弟原郷の産中、父を
役公氏と呼り人皇三十五代舒明天皇五年癸巳三月役公氏の妻天より乃
独股并降て申ふ入と夢令々妊娠し。十月迄て月六年甲午の春正月元日小
一男子と生り。面貌異相小く形躰魁悟小頗る尋常の赤子と異あり。各
成小角と号て音る小幼少の時より自余の小兒と遊戲を好む。只山林小
入く独遊なり。十三才小乃頃維小学ともかく密乘と感悟し。能孔雀明王

の兒不動の真言と持誦し。雨中小笠を被されも衣服と沾さず。常小行
歩まると小足跡を履て春蝨虫と踏む。膝と編て衣。菓と食して佛
道を煉修し。十七才小て河洲金剛山に登り修行し。一日洞小微妙の声
あると中て溪へ下り。不期法起菩薩小拜謁し。菩薩の說法と聽史
して三昧と獲得し。山上小一字の草堂と建て。法起菩薩の尊像と刻む。
安置し。金剛山小笠住し。凡十年齊明天皇四年戊午。小角二十五才小及び
金剛山を出て撰州小入り。三月十七日箕面山に登り洞の流小沂て山深く入
尋行小三重の瀧あり。最上の瀧ハ高さ二十二丈。是雄滝カ。第二瓊瑤乃
滝小。岸石飛泉玉と串々多。因く瓊瑤の滝と号く。第三雌滝
カ。高き十五丈。余穴も布と曝せるが如し。頂上の滝壺小。龍栖り。其長三
丈折り。黒雲を吐て雨と降せり。今も早瀬の年ハ此實。洞乃せり。小角此瀧壺の邊

小角菴と結び拙で丹波を凝して苦行々々小角年四月十七日の夜の夢小角
 滝壺の底と探知を思ひ淵の中へ飛入底深くいれを却り水なる一座の城
 廓有て石門と鎖し小角小何人の拙やと少時停立て内の動靜をゆめ
 幽小技樂の韻を奏せり依て不動の真言と誦する更數百遍小角は須忍ち
 門内小角あつて回て曰門外小真言と誦する八雅人をと小角各て我六昔の城役
 の小角なる然り人々維と門内より各て我八是德善大王なりとて即門を閉て
 小角と緒入奥へ伴ひ行重門高く樓閣夢とけを擔と膝しり悉く七宝
 鏤て莊嚴金の臺珠の指心も幻れ及れを室池小優益羅華拘物頭
 華咲もて妙香馥郁と芳玉琪樹列異州生靈會和雅の音と獲て
 妙法を嘯り空幢幡蓋薰風小飄り摩尼の燈明と閃燿と光と甘露
 醍醐の飯食寶器と盛陳し諸殿前小丈餘の錫杖と立正面と毎小丈余

の鼓聲と懸心し皆剎限到るを揮筆されも己と微妙の音と幾度殿
 中小龍狂舞舞臺空し小左右小十五位の金剛童子圍造せり又中央の宮
 殿の裡小七宝莊嚴の床あり其上小龍樹呈菩薩辨才天女儼然とて坐
 しり時小德善大王佛前の香水と執て小角の頂小灑ぎ頂を撫て曰你
 本所小還リ力の及ぶ限意小任せ難山切所と開れ佛場と成と有るが
 小角謹んで領掌し九拜して退れ出水上へ浮上とみむ愕然とて夢さめ
 小角大い歡喜しこれより滝の下西の側なる荊棘を刈り石を
 平げ草の堂と建等身の筆を以て龍樹菩薩辨才天女の像と造り
 同年十月十七日紅葉と折薪と樵て肉眼供養して安置し又德善大王十
 五の金剛童子等の像も造り護法神と堂の東北の隅小小祠を建て
 安置し樹とて石の滝の上にて孔雀明王の咒と誦し夜々滝の下にて不動の咒

と編山の各洞の水を供じ三時の間伽憊息と三密の觀行を神心と凝し煉行
苦修するも更二十年是功德小依て於伽羅制多迦の三童子まつり且係
給仕り又前鬼後鬼と山神常事して薪水と採りて小角神妻奇特
究りたり能空と歩み水と踏で涉り人の吉凶禍福と未前案し疾病有
者其兒符とよめる小奇病難病も治せざる更なり是小因て世人小角と活
佛のく敬ひ尊び神妻大菩薩とと稱しける

役行者開基大嶺 得前生劍杵事

其后天智天皇六年乙卯小角二十穿小て和州大嶺と開れて勤修し或
日嶮峻峯小登登々小個の骸骨あり五體分散と長九尺五寸余小て左
の手小独股杵と握り右の手小利劍と持て仰臥り其融體の眼中より樹
木生出り小角是を見て其劍と杵と取んとこれをも更取更能と小角

甚と怪と不動明王小祈誓し願く彼劍杵と取得さるると丹誠と凝
して祈り不動の真言と誦して且と暮されたる小頻小睡小閉し不覺山巖
小倚り坐て眠るも小不動明王出現し小生曰く彼骸骨は修前
生此山小煉修して死しる所の遺骨なり持し劍杵と得んとお六千手
陀羅尼三十遍般若心經百卷續誦し然と取ると告ると思を夢さめ
り小角歡喜し夢想のて千手陀羅尼般若心經と續誦して後劍杵
と取小果して骸骨自手と開れて劍杵と授たり小角是と得て大不怖
び生涯身と離さず所持せり諸大峯より紀州熊野へ通る路を踏開
れ三十八才ありて葛野の金峯山小登りて修行し心と煉更數十年お及び持
統天皇九年丙申六十三才己小年老て葛城の嶺より金峯山へける路嶮
々として稍行悩むれ諸方の山神と驅集し你小葛城より金峯山へける路

岩橋を造れよと命せられしを山神亦命小從の岩石と運ひ岩橋を造る
 準備をたしむる小角一言王といふ神ありて其形容甚だ醜くやうを昼出る更
 我耻緒の山神小告て自休も夜母小橋と造りたり是小因て岩橋乃成就
 する更最遅よりこれ小角怒りて山神亦と召集你亦何又橋と造るを懈
 と怠やと責叱々々山神亦曰一言王神自出る更と厭ひ我徒小告て夜の橋を
 造るとする更橋の成就する更遅くといひるを小角大に嗔り一言王を
 呼出神兄を以て両腕縛り則ち誓て曰将来我小等れ修験の力ある者
 有む汝が此縛索と解得せむや若我小いこれ者毎人を五十六億七千万
 歳の後弥勒動出世の時我解得せむやとて這の谷底へ投中れり今我金
 剛山の東小一言王の洞といふ所ありこれを歌ゆ
 いふ小甘人奈乃岩より中絶ぬ明るびりき葛城乃神

とよみて中絶る意の本歌とせり。ける神通力ある行者あれを金峯山小末世
 乃衆生と利益とすべき本尊と造り安置せんと三世諸佛小祈念し一七日か間昼
 夜を忘るまじ心経を續編を祈られり小七日満むる曉地獄善菩薩出現のひ
 々小角が白筒様たる柔鞭の相みて末世欲惡の衆生を化度志る更能く
 と捉て遠小擲られり地獄善菩薩即ち伯耆の大山飛行のひりも或
 る吉野の投地獄といふ是かりとも細り其後より一七日心経を編を祈られり
 且七日の曉弥勒善菩薩出現し是も又小角の意小合されを劍以て
 亦拂三度目小眼と瞪り齒を切て去行し一七日か間心経を編して祈られり七
 日満むる曉小金剛藏王出現し其相格色青く忿怒の面恐るる左手小
 劍印と結んで腰と托へ右手小三股杵と把て去り小角大に怡は是を末世の
 濁惡の凡夫を化度志る更能く木尊かりとて柘楠木と以て等身の金剛藏王の

像と刻く金峯山の釈迦窟小堂と建て安置しゆ。如斯勇猛の行者も時の不肖免れ更能く不虞災難を出来小く其故和州の住人小従五位下韓回連廣足と云者有て小角が神変奇特あるを以て其門人とかり道修行多小其勤行の行作甚厳密中て堪がうるを廣足稍心倦て修行懈怠多小角大叱り散く小言辱められ廣足亦面々退れ帰るる中深く小角と怒と都へ上り朝廷へ出役小角と云者邪術と行ひ愚民と惑し財物と貪り取りと天逆小絶奏去れ朝廷の諸臣小角の徳と云ず。廣足が絶言と信し帝へ悪多小奏聞しけるに其者て召捕せよと詔するゆ。是小依て公卿武士小命し。葛城なる小角柵へ馳向ひ召捕て来りゆと令しなれ。武士も領掌して葛城山より小角小對面し。當今汝小脚不審の義申すま子回急に都へ来りよと言なれ。小角敢

て命小應せど我王の臣王の民小もあを。世捨人あれ都へ召るべ久留たりとて自若く起され。武士大い怒り。普天之下王土小非る更なく。卒士の賓王の民小那むと習妻あへん。今此山も王の國土なり。你此山小柵を即ち王の民あらずやとぞ難ト多。小角嘲し。此土王の國あを去去命し。急ち虚空へ飛せり。空中小端坐して坐する小。武士も惱果柵捕と能く。手と空してある居る許なり。小角是と見て微笑し。頓て雲と踏で行方去す。ありなれ。武士小安相違し。如何と云れと商議する小。一人の者進出我彼小角一人の老母あり。小角生得孝心厚く。猪脛と往歴し。折り歸て母と孝養する。とぞされ。彼老母と捉て都へ歸り。小角母と慕ひ。都へ上り縛小就。と云小。衆士實も此策妙なりとて。茅原の郷へ馳行小角の母。八十金と捉へ駕小乘て都へ上り。案のてく役行者母と人賃小。れ力なく。都へ上り。朝廷へ

名告て出縛索ふ就久久間老母を免し之と願れ之れ即ち願ひ小任
 せ老母を免して古御へ入され借るを小角と伊豆の大嶋へ流罪小行
 りれりたる也とも神通自在を得りて行者なれば其大島の配所小
 居りとも夜に起行と古御へ入り老母を孝養し之れ或は富士筑羽を
 之れ所所有難山切所小游行して道に修し之れ更以前小易らざりたる
 廣足又心小想らひ彼小角國の掟を犯せしも罪を遂小赦免と蒙
 り我身小後難と及し之れ不如公の手を借て殊せんふとて又高市王
 流しと曰く之れ役小角流罪小行れと怨む配所小帝を兇咀なる由
 其也えあり早く殊しむむんを必と天下の害とかりし也と告ぐる小依
 高市王す此倭言小惑りされ翌年十月廿五日武士と伊豆の大嶋下り小
 角が罪を弘明し帝を綱伏しなる更緘めむ殊戮を命しと命せし也

々る然小廣足武士小賂賂と贈り自他も小角と殊と之れ中頼り武士心得
 て大嶋下り一鷹の丸向ふ及小角と曳出新罪と之れ勅命人と偽筆の
 宣命と續ませしれ行者少も恐る色なく敷皮の上小端坐し手小大日の印を
 結び只不動の真言と唱自若とておしるも太刀取の武士其後回リ太刀を揚て
 首と下り斬小恰も船石と切り去り太刀二段小折役者小安然と太刀取是も太
 刀の悪しきをみんと太刀を取て再び曳しけ声と斬ふ又三段小折て行者
 悠然と有合武士も憫甚て化然と其時行者徐小後と顧みひ先小續
 宣命小帝と兇咀し之れ罪小依て死罪小行とあれと我曹と帝と兇咀せし更
 かり修する所天下安全の祈のなり然小你小罪がれ我を殊せんとは是三宝
 乃大賊かり若強て我を斬んとせし却て禍你小身小及ひ且又宇南三年の間大
 早魁して万草盡く種と七帯りと仰る小と武士も大も悲し二衆士行者小罪



役
小角

白雲九己圖會之可高

二九

官吏 行向 役の 小角 捕 入 小角 雲中 赴 住方 三



都捕手

白雲九己圖會之可高

二九

文武天皇四年春三月奈良之真寺の僧道照入寂を仰此道照河内國丹比
 郡の産小て俗姓と船の連と呼又惠我とて儒業をかり多小道照佛道
 次好も出家して孝徳天皇の白雉四年遣唐使の徒以入唐して普唐書
 聖壇と廻り博識の僧と尋て緒経と學び究り長安の玄奘三藏
 小錫し其高德博文りと尊敬して徒弟とかり経論の温與と學び
 此玄奘三藏とく唐の太宗皇帝の皈依僧也其道德高く曾て大般
 若経の未と唐土へ渡り致れ天皇の路上の千苦万勞と凌り遂小大
 般若経及諸の経と得て帰國せり程の名僧かり多道照が俊才剛紀ある
 と愛し寺中の寄宿を教導れ多道照好む所かると寢食と忘れ
 學び緒経の秘決と悉く授り多小玄奘道照が學業成就せりと今六
 古郷へる倭國の衆生と化度せし但一佛教の廣く大いたる史實真へり

你禪法とて日本へ流布せよと座禪棋心の法と口授り多道照大に歡喜
 昼夜座禪工夫心を煉遂小大悟とる更と得り多小師玄奘の法思と深く
 謝し帰國の辞別を乞ふる小玄奘緒の別離小臨とて佛舍利経論若干片
 抄け又一の鑑とて曰此鑑我西天とある羅漢より授り持歸て平日小食
 物と煮て嚙とる小身軀健小なり諸病愈とると更かり真不思議の名
 言たり今你小するなり倭國へ携り歸り諸人の病苦と救ひ功德の種と植よ
 と申されれ道照三度押載て厚恩と謝し遂小袂とて日本へ入る船
 小便船とて乗頭て大洋へ乗出風小任と船と走らせり多小數日三船中
 の者多病と得て悩と目と道照師より授り多鑑致り出病と煮て
 患病者小喰しむる小衆人病頓小治り多皆大に悦び其鑑如何の名
 言多れをが奇特のやと向小道照即ち玄奘が語り趣を語せり多小

船中の者大い感に誠の甘小難有室苦うをを貴びる。其後又數日とて
 日本地も近く成る。如何か。更おや忽ら船大海の上居りて一寸も動
 水主揖取大い怪とて曰。今順風なり。船の進ま。河史中と。百艘小とれも
 船の動も。更三日三夜小及なれ。船子と先と。船中の者大い難。是常更
 あり。皆面色如菜。恐る。小中小入上。蓋小積。有者有て卦と。とて言
 々。是龍神需る所有。更船と。苗め。わり。若其需る物と。とてん。終
 小此船と海底小沈めても取。命小換。室かり。各所持の品と。紙書
 て海。投入其沈む物と。海。沈め。なり。衆人。意と。銘。所持の品
 と。紙。紀。道照も佛舍利。経卷。鑑。小。道書。て。日。小。海水。投。余
 乃紙。悉く。浮。流。且。道照。が。鑑。と。書。紙。乃。海底。小。沈。と。衆人。口を
 揃。偕。と。龍神。脚僧。の。鑑。と。欲。と。早。鑑。を。海。投入。と。言。道

照敢て止。目ん。と。此鑑。龍神。小。借。小。あ。手。我師。より。諸人の。病。と。救。と
 と。賜。う。と。龍神。小。子。の。謂。たり。你。個。も。先。小。此鑑。の。徳。小。病。苦
 小。免。と。小。あ。と。と。投入。な。れ。氣。色。な。る。を。衆人。大。い。困。り。仰。と
 さ。る。更。た。れ。も。若。鑑。と。惜。と。此。船。龍神。の。小。覆。され。我。徒。ハ。更
 かり。脚僧。も。俱。小。底。の。水。屑。と。かり。悪。魚。の。餌。と。かり。小。舟。小。貴。の。鑑
 かり。何。の。益。小。分。れ。世。小。な。れ。密。か。れ。我。木。と。も。惜。な。更。限。を。れ。龍
 神。の。望。む。上。方。かり。願。小。船。中。の。者。の。命。と。助。め。と。頭。を。以。て。船。板。と。敲。き。手
 と。合。と。拜。と。異。口。は。音。小。と。て。止。され。道照。も。今。入。辞。小。遂。小。鑑。と。把。と
 海中。投入。る。最。惜。む。事。かり。斯。て。鑑。海中。小。沈。と。ひ。と。忽。ち。船。動
 れ。出。し。素。素。り。帆。と。上。り。俣。苗。一。船。多。れ。追。風。以。受。て。ま。る。更。矢。の。ど。一。船。中
 の。者。も。獲。生。し。心。地。と。怡。合。る。限。か。道照。と。佛。の。ど。拜。と。去。程。小

海上と行吏敷見して遂小平戸の浦小着船し多道照船と下て和州
奈良上り元興寺の内小宇の禪院と建て住し。昔く禪法と弘通と日本
禪宗の南祖道照を緒國の僧道照が飯朝と傳ゆ我もくと聚りきま
て後弟とかり禪法世流布し悟道と者多し。道照中緒國と遍歴して
路か所路を造り水便わね所ハ池と堀井と穿て耕作の便と。又行旅
のこ小橋を掛運送の便小船と造り世益とる吏古の行基小方と山背
國宇治橋も道照掛始し所なる道徳の知識あれ貴賤も道照を敬
ひ尊まざるか。當今武も道照と御飯依あつて抵内裡入る経論を統
せし御聽聞ましくたる。然る小道照行年七十二才して何の悩る吏もあつて結
伽扶坐して入寂し。帝甚く悼惜まのし承る元興寺勅使と立
其死と紡を消帛手穀ホと賜道照曾て末期小後弟成招た我入寂せし後

ハ七殿と大葬せよと遺言る小依後弟亦遺言る從ひ栗原の野外小於く
柴と積茶毘し。たる小と五温の形體ハ斤の煙と消ゆれど。名ハ後代の書史ハ
残りたり。是を本朝大葬のこめわりたる

日本追儻起源 文武天皇崩御之事

日四年對馬國より始て金と献りる小と帝齋感斜めと先例小仕對
馬國司小贈宜賞祿等と賜朝廷の群臣皆其祥瑞と拜賀し。是
小因て年号と大寶元年とかり。以後年号と定式とととと詔命
し。ゆ丸是まで大化白雉白鳳朱鳥ホの年号われも未だ定式たり。或八年
号と或六年号われも有る。此帝の御宇より定式とたり。此以後の帝小年号
あれハ在さし。故小緒書小ハ大寶と以て年号と定式と始也と紀せり。偕大寶元
年正月元日帝大極殿小出御し。御門の正面小鳥形の旗と立させ宮殿の

左の日の御旗及び青龍朱雀の旗と建右の月の御旗及び玄武白虎の旗と
 建させの後世まで大禮ある節ハ皆此儀式を用ひ例として有り。は正月丁
 巳日大学寮小於て始て釈奠の禮成修せられ大聖孔子の像と祭の抑儒学
 と仁徳天皇の御宇儒書始て吾朝渡り直岐王仁を本朝の儒道の祖とと
 且ともいふ。釈奠孔廟の義ハある。小當今此義と始りてより天下の人民
 儒教と重んじ仁義礼樂の大祖と崇まて知り。城小儒学の日本小開けし此
 帝ハ御功なり。は年十月太上天皇統三河國御幸のひける。都還御
 乃後忽ち御不豫小なり。せのひける。帝と首なり公卿百官大ハ小致れ。医官
 と和漢の良方と六九て御薬と献り。緒寺緒社ハ御悩平愈の祈念小丹絨と凝
 且又天下小大赦を行れて。緒の罪囚と赦し放し。百人の僧綱を召れ。金光明燈
 を續編させ。専ら御平愈と祈らせのひける。天數満させのひける。や終小

十二月小登霞かりのひ。太上皇山崩御させ。前小緒臣下ハ御遺詔有る。ハ
 朕死去とも務を廢し。喪小籠る。喪勿と万常の如く。帝と補佐せよ。葬式
 の更も儉約と肯と。無用の礼式小凶財と費さず。何更も貨素小。只野外小
 送りて火葬小と。宣ひ置せのひ。此君ハ前條小中ぞ。婦徳と脩りて
 天武帝と危乱の中。佐りの。室祚小即せのひ。より。神と崇め。佛と敬ひ。文を
 勸め。武を厲し。臣下と恤み。民を憐れ。世と泰平小治め。の。彼唐の則。天台皇后。政
 と専ら。淫樂と恣ふ。と。純綉と千載小遺せし。と。雲壤の違わ。る。女君。在
 る。天數小免。との。更。能。と。終小。顏。姑。射。の。山。行。幸。打。り。も。と。悲。し。當
 今乃御愁傷ハ申も。疎。して。滿。朝。の。文武。乃。臣。下。悲。歎。の。紅。淚。小。徒。と。絞。ら。ぬ。た。か。く
 下。万。民。も。赤。兎。の。母。と。表。ひ。て。號。哭。も。る。声。野。小。元。々。る。然。れ。も。斯。て。有。果。れ。小
 あ。ら。ざ。れ。御。遺。勅。小。任。せ。葬。式。の。礼。を。整。正。小。和。鳥。の。岡。中。て。茶。毘。し。も。れ。り。是。帝

王火葬の始なり。帝ハ諒闇ありしせの翌年の正月ハ朝拜の儀と慶すれ
 親王以下百官百司太上皇の殯宮緒糸リて拜礼せれる。太上皇崩脚
 ちのひ一更遠く異國までゆえ新羅王より使者を以て喪を吊ひしる表曰
 宣君不幸自去秋疾以今春薨永辭聖朝朕思其蕃君
 雖居異域至於覆音而允同愛子雖壽命有終人倫大期
 而自聞此言哀感己甚遣使吊賻

如斯異國の王まで太上天皇の聖徳と慕惜もなり。斯て帝ハ倍朝政を
 正しく布るひ諸國の宣使を遣されて諸洲の智能ある者で称一挙過失ある
 者と穢れ黜る。是ハ依て上下皆學問を勵む行跡を慎む。曰三年越中
 岡小立山推現を勸績を願ふ。天教興かり帝又詔命して美濃國小岐縣
 山後本曾作を用き。八月年夏五月帝西殿の櫻小よせのひ四方の風景と瞻覽

在まよ々々小西の天の方で五彩の雲變肆とて脚覽。甚ど龍顏嚴く大いハ
 愛與めいのひえれ。君前侍坐公卿皆起て祥瑞とて慶賀し。是
 小因よく則ち改元あつて慶雲元年とてのひ窮民三年以前の未進を脚覽
 有あれ由と觸さめ。のひえれハ貧民大賑ひ。挽ひと変限なり。然るハ其年乃秋
 の季より冬小至り。都も鄙も疫癘大ハ流行て家々戸戸小病臥死亡する者
 甚ど多り。多れハ帝是と憐愍のひ冬十二月始て饑の式とかなせ。疫神と饑
 けせのひえれハ其徳おてや疫病漸次小止ふ。是吾朝饑の推興おて未代ハ
 朝廷乃恒例とて行はる所なり。民間前年の夜小杜谷樹の枝と門戸小拵と豆と
 爆ひて屋内小撒し。鬼兮外福兮内と唱るも此饑の式と換する所おて最古ハ行
 事なり。斯て慶雲四年とて四海太平かり。多るハ帝御怒り。つせとて
 以の外脚大吏ハんえ。せのひえれハ御母太后の御發馬ハも更なり。皇太后皇孫緒

親王諸大臣其他百寮の官人まで大に驚れ良医肺肝と確て医療と尽緒社の神官御怒平愈の祈禱丹絨を効。緒山の碩徳病息即滅の大法秘法小身命と地て祈れども定れる御更也。露をうも其強なく慶雲四年の六月中旬終小雲隠させり。御在位十年宝篋二十五才小と在る。噫悲のこの此帝は荒弊の仁徳も劣らせり。神佛と御崇敬深く於て御孝心を漢の文帝も勝せり。御君年がう学と好と經史に通。詩歌も御秀作。射術も能御鍛煉まじ。万民と恤む。更母の赤子と慈む。九年凶作。必を民の貢税を免。流行病ある時。人民も医業或賜ひ孝順の者。小賞金とある。廉節の去。挙用ひひ。法を定て刑と輕。博奕を禁。どと風俗と正。儒学の道を隆。弓馬の術を勵。聖君よて。世のいふ奈何か。皇天壽と貸さる。未だ三十やも満せり。とて。明御

させり。とと天と怒。地と恨て。万民街小。後倒悲哀。事限。朝廷。人々波あ。尊嚴と推。小収。奉御遺勅。小任。先帝と等。飛鳥。岡。小て火。葬。小。後緒御。綱。皇子。小。御幼推。小。先帝の御遺詔と演。御母君。小。帝位。勸め。御母。太后。固。御詳。小。ま。御。緒。御。勸め。小。已。得。小。逐。小。緒。小。元明天皇御即位 從武藏國獻始銅條 先帝の御母君御遺詔と。緒大臣の勸め。黙止。御孫皇子の御成長。在。思。小。秋。七月。大極殿。於。宗。小。即。此。君。を。人。皇。四。三。代。の。帝。元。明。天。皇。と。奉。即。天。智。天。皇。弟。四。の。皇。女。小。御。壁。皇。子。の。宮。妃。小。先。帝。と。生。持。統。天。皇。の。御。妹。小。御。緯。八。日。本。根。子。天津。御。代。豐。國。成。姬。小。名。阿。用。皇。女。と。な。れ。時。小。密。堯。四。十。七。才。小。な。り。也。

皇聖御即位年 聖年正月武藏國より始て銅を献呈す。是日日本
 銅を産する始なり。天皇斜中平敷感す。武藏の守護人小重、俸
 禄と賜り。年号と和銅元年と改す。其三月紹して和州平城小都と
 造じ。是は去年御即位の後諸大臣経議の上平城を都と成り。勸
 められも。天皇勅許去り。皆て宜ひ。朕不徳の女身とて。萬乗の宮
 位を汚し。更天神地祇の照覧を恐る。御遺詔黙止。皇子
 御成長在。假九五の位と踐も。先帝皇女駕す。未だ幾下乃
 日。夜経ざる。小遷都せん。憚あり。具財用を費。民を勞さんと。宜まふ。あが
 と固辞し。ひ。其議止。此春又二區舍人親王。弟三の皇子。緒臣下と集
 再。遷都の評議と定め。斯と奏聞有。天皇猶許し。ひ。舍人親
 王階と進。出奏ま。君。國賊の貴民の疲勞を厭。六御理。ひ。

近代帝王室業短く。ころ。せ。更。六都の地相應。あ。故。ひ。久
 う。夫。熟慮る。小。往古より。已。降。日。夜。揆。星。と。瞻。て。宮室の基と起。せ。上
 ト。土地と相。帝王の都と建。更。永。鼎の基と定。無。弱の業を周。む。る
 所。ふ。と。敢。て。者。移。逆。樂の。為。小。ひ。昔。殷王。五。度。都城と遷。て。中。興。の。號
 と。受。周。后。三。度。都。邑。と。易。て。太。平。の。称。を。致。せ。臣。平。城。の。地。勢。を。相。ひ。小。実。小
 四。神。相應。三。山。鎮。之。復。の。勝。地。か。故。小。先。帝。も。都。と。平。城。小。遷。人。との。獻。慮。小
 て。在。れ。も。時。勢。の。御。違。ち。て。默。止。ひ。早。も。崩。御。か。の。を。先。君。の
 御。遺。念。と。暗。さ。る。為。狂。臣。等。小。任。せ。又。と。練。奏。有。る。小。依。て。天。台。も。漸
 勅。許。し。ひ。都。造。の。宣。上。と。下。の。ひ。なり。諸。卿。奉。り。百。工。を。召。寄。平。城。小。宮。殿。と
 造。卒。し。令。し。成。就。を。急。せ。れ。る。年。夏。五。月。紹。して。銀。錢。を。鑄。す。め。是。迄
 倭。國。小。錢。を。用。る。く。又。も。皆。異。國。より。渡。る。錢。小。て。日本。小。て。錢。を。鑄。し。此。時。を。始。と。す

召急小丁民觸^レ其^レ私小錢を鑄る吏と堅^ク停止^シ付^ル者^ガ若^シ此^ノ法^度以^テ背^テ私^ノ錢^ヲ鑄^ル者^ハ重^ク死^刑行^ハる^ル所^ナる^者小^ハ賞^錢を賜^ヒ其^レ犯人^ヲ知^ル者^ハ罪^ナる^者八^ノ罪^ナる^者是^レ依^テ私^ノ錢^ヲ鑄^ル者^ハ大^ハ小^ハ此^レ其^レ後^ハ錢^ヲ鑄^ル者^ハナ^クラ^ズ

平城都遷幸 山城國稻荷勸請之吏

去程^ハ和^銅三年^ハ平^城の都^ニ成就^シテ^ハ依^テ天^皇群^臣と徒^レ行^ハる^者整^テ遷^都ナ^リ石^上店^ト左^{大臣}任^ト藤^原の淡^海を右^{大臣}小^ハ整^テ淡^海公^ハ悦^喜限^カ深^ク天^恩を謝^ス且^ニ奏^聞シ^テ臣^等又^ハ鎌^足存^生の昔^ハ匠^臣孫^我蝦^夷又^ハ子^ト亡^滅ス^ル三^寶不^願ト^シ輒^ク賊^臣又^ハ子^ト夷^滅ス^ル乃^ハ一^寺と建^立シ^テ聖^像と安^置シ^テ誓^シ祈^ヒ小^ハ佛^{菩薩}力^ヲ添^フ小^ハや女^ハ蝦^夷入^鹿ホ^ト殊^滅シ^テ依^テ一^寺と建^立セ^ン思^ヒ公^務繁

其^レ義^ト果^シテ死^去ス^ル臣^等又^ハ志^ヲ嗣^堂宇^ニ建^立セ^シテ^ハ欲^シ公^務繁^ク今^日追^默止^ム小^ハ此^ノ頃^ハ漸^ク暇^ヲ得^ル當^所小^ハ寺^ヲ建^立シ^テ亡^ス宿^願果^シ一^ノ萬^望勅^免と庶^幾ナ^リ願^ハれ^ル天^皇歡^聞ナ^リ奇^特乃^ハ義^ト御^感在^テ子^細ナ^ク勅^免ナ^リ是^レ依^テ淡^海公^ハ平^城大^伽羅^ヲ建^立且^ニ真^福寺^ト号^シ丈^六の釈^迦の像^ヲ安^置セ^レ兼^足公^ハ宿^願を果^ス和^銅四年^ハ天^皇萬^民の五^穀成^就と御^祈の爲^メ山^背國^紀伊^郡飯^盛山^小稻^荷社^ヲ造^立一^ノの祭^祭神^三座^倉稻^魂太^田命^大宮^姫以上^ナリ^テ日^五年^正五^位上^太安^麻呂^古事^紀三^卷を撰^テ献^ス日^年始^テ賀^茂祭^ヲ行^ハル^者又^ハ此^ノ年^陸奥^國を久^ク出^羽の國^ヲ置^キ日^六年^丹波^ヲ分^テ丹^後備^前分^テ美^作日^向分^テ大^隅と^シ日^七年^布及^ノ長^と丈^六尺^ハ定^メ如^斯萬^吏國^益有^ル吏^ヲ始^メ日^政道^正女^帝在^リ日^八年^緒國^ヲ

大系早して春より夏に至るまで雨降ざりしを緒國の農民早魁困窮する妻
 甚し天皇大系歎せし是天より朕が不徳と責む所なりとて緒山の僧綱祈
 雨の法を修せり緒社に幣帛捧て雨を祈せし御身沐浴齋戒し朝夕
 供脚と断せし宮中にて天地を拜し雨を祈せし天神地祇も其御丹誠を
 感しひん三日より大雨降出數日膏雨降るる更緒國も等しく枯乾る
 田畑潤ひるも万民勇悦び深く天皇の御仁徳と稱都の方で三拜せぬは
 けり然天皇御生質弱く在る小指年も老させしを朝政を聽し頼
 思召群臣と議て皇女氷高内親皇小帝位を讓せし是先帝乃皇子
 いま御幼年なれば万機乃政を委し之の御妻たり此氷高内親王と
 草壁皇子の御女也文武天皇の姉君なり是より此君も御母天皇と
 婦徳を具し寛仁温順の御本性史密作と傳せし内親王數度御國

辞ありきも天皇敢て許しおろさるる已更と得ぬを遂小御承りまはり

元正天皇御即位 從近江國獻靈龜條

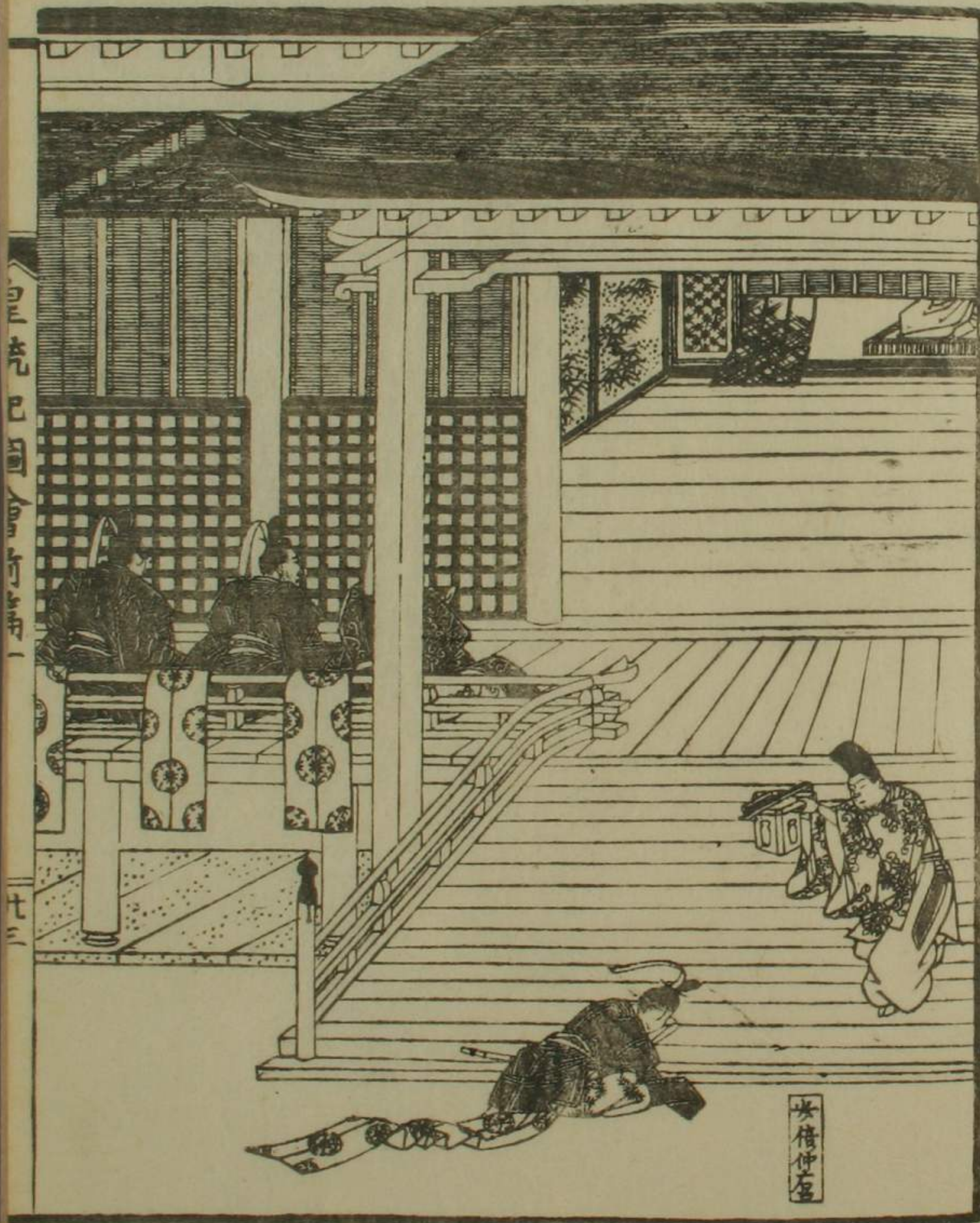
皇女氷高内親王帝位を受嗣し和銅八年秋八月大極殿小於て御即位
 在り群臣の拜賀と受り此君と人皇四十四代元正天皇とす御尊日本
 根子高瑞淨足姫又氷高内親王と稱すと室葉二十六才小をたせしける
 即ち先帝毗小上天皇の尊号と奉りし文武天皇の皇子皇孫櫻葉皇子を
 太子小立のち後小聖武天皇とす此皇子なり執政の全人親王左右の大
 臣も石上淡海もて万端前朝と更し更す所八月下旬小江州淺井
 郡の漁夫亦一甲の龜と携て平城の都上至高田首久比古小就て松多ハ
 我徒湖水小て網を曳し所湖の面小雲氣立り水不測小思ひ其所(網と
 下)曳揚ひむ世小珍し龜網小をい小付捉て獻上いとたり久比古

て龜と受と朝延(献)り。漁夫ホカヤレ、侯と葵(聞)しを。天皇緒臣と是を
 觀覽し、ふ実希有の龜也。長七寸、闊六寸、左眼白く、右眼赤く、頸小三
 寸と著し、背小七星と、肩前脚小離の卦あり、後脚小一、又、腹の下赤白の
 点あり、て八字の象とせり。君を先とせり。緒の公卿是龜と見て、莫小希
 代の聖龜と感致して止む。中、中舍人親王進出て、すまはる。是、天より示
 所の吉瑞あり、凡、龜ハ甲小三極を備て、万年と待とせり。往古中華乃
 禹王の代、小梁河より靈龜現れ、出甲小八卦と負し、是、天地定位の後天の易
 なり。号て洛書と稱り。後、年、周の文王、伏羲氏の河圖、禹王の洛書と合せ考す
 八卦の易と著し、周公且六十四卦と定し、より。天下の易曆是より起す。其餘靈
 龜の賀瑞、倭漢とも例あり。當今、女帝、在せども、聖徳と備り、故、脚即
 位の始、此祥瑞を示し、所ある處、とて、冠を傾け、慶賀し、奉られしを、

左右の大臣も、並居る公卿皆萬歳と唱へ、賀瑞と祝し、より。天皇龍顏殊
 小麗く、觀感在り。久比、右、及び漁夫、賞禄と賜ひ、和銅八年と改て、靈龜元年
 とす。ゆゑ、彼、龜、再び湖水放す。ゆゑ、ゆゑ、其後、天皇緒の文宣武臣と召れ、
 勅詔し、ゆゑ、朕、不肖の女身とて、十善の寶位、即、靈龜の祥瑞を世するべし
 と、敢て、不徳の身、不慮せむ。是、皇天、朕、小政教と正し、く、せ、ゆゑ、人の脚、誠なる
 也。され、天下、泰平、小五穀成就し、万民、豊饒あり、吏と願り、夫、耕作、ハ、四時、寒、暑
 の、遲速を考て、耘り、耕との時と、過、さ、る、善と、する、夫、寒、暑の、遲速を、探、ハ、
 曆より、善、カ、如何、せん、吾、國、い、ま、曆、カ、多、ク、万、民、耘り、耕との時と、過、さ、る、吏、能、
 ハ、朕、身、を、患、お、れ、中、華、の、古、小、做、り、万、代、不、易、の、曆、道、と、起、す。天下の、民、小、能、月、乃、運
 行、と、年、寒、暑の、遲速を考る、吏、と、得、て、種、藝、の、時、と、違、さ、る、ゆゑ、人、吏、と、欲、せ、ん、最、吾
 國、古、より、曆、と、用、也、る、ゆゑ、是、漢、朝、の、宣、命、曆、天、皇、の、名、曜、曆、等、乎、吾、國、の、制、表、

あす日月の運行の萬國とも易る更を有るをいふも風土未侍て寒暑異るを異
 國の曆をて、季候の等しくする更無とも謂ふ。願ふ日本曆を製永く萬民耕作
 乃便を得さめまわ。傳聞唐土の金鳥玉兎集とて曆を作る法と記す書籍
 有と云其書と借得て吾朝の曆法を起さんと思如何と宣ひしを列位公卿
 紹と奉りて美難有慮慮多と感奉りぬ。又想多る唐土渡り其秘書を
 借得て歸朝せん更凡庸の者の及ぶ所あらず。此御使を奉らん者八難あるん
 と列卿と懸て黙然として刻を設る人あり。時小舎人親王少時勅て中されたるハ
 減小難有勅詔して仁恕是小勝る更ハハ。臣彼金鳥玉兎集の義と租承り及びハ
 彼書本ハ漢土雍州城刑山の白道仙人より入天竺より五臺山小登りて大聖文殊菩
 薩を拜し。教尊の鏡のハ所の大集日藏月藏の二經及び宿曜曆等の天文地理乃
 與義と傳受て漢土飯り伏儀氏の運氣論本と考合して二卷と著し日月星宿を

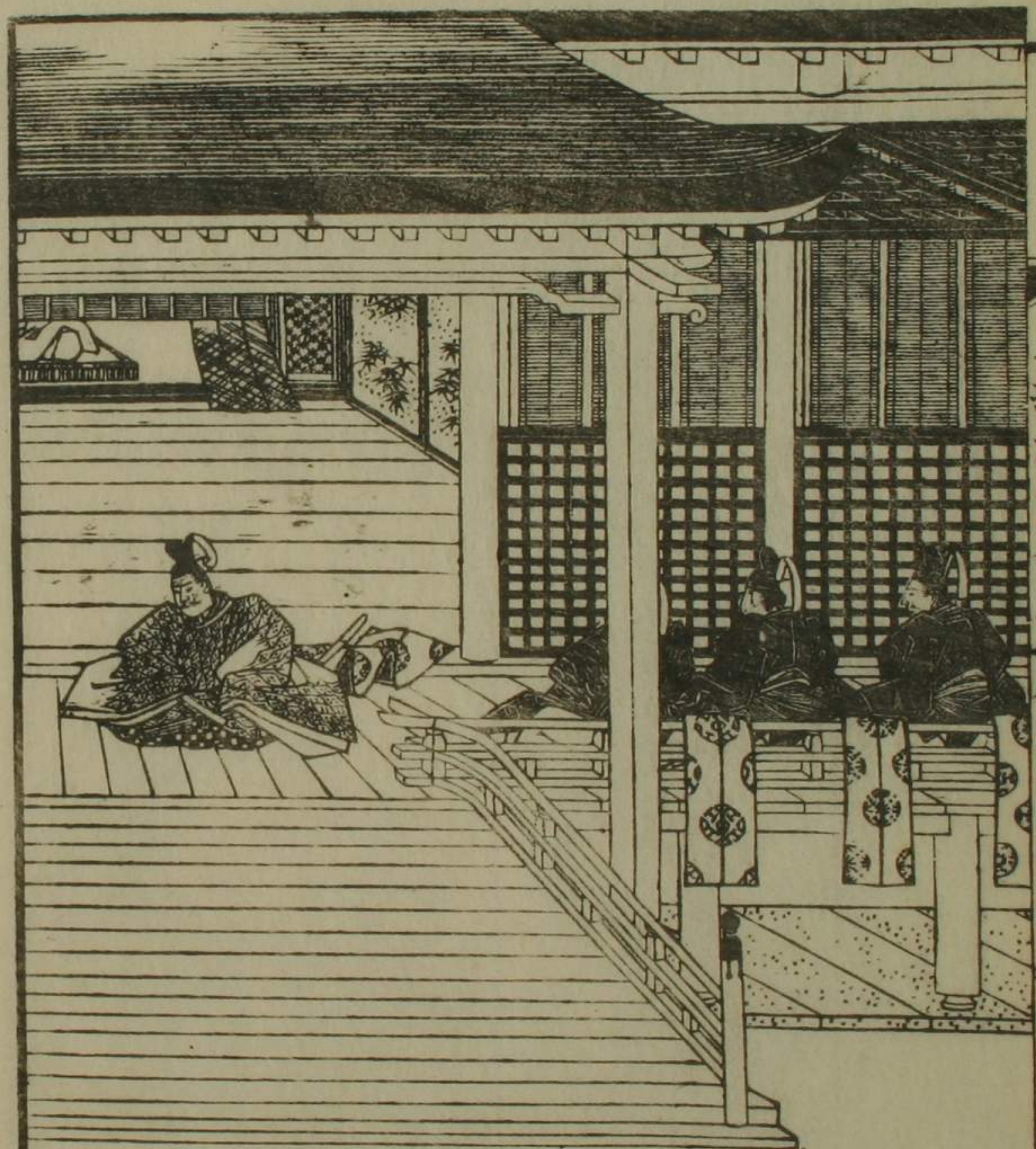
撰り知術を具へ簞笥内典金鳥玉兎集と号しと名後唐帝少傳り代珍藏して
 當時玄宗帝少の追深く密藏秘天学曆官の他ハ大臣ととも喜り小園より
 更を許されんと承りぬ。他國を猶以て借渡されぬ。彼書と借得ん更も
 龍の腮の玉と得より猶得ざるハハ。然れも万代天下の人民の爲を思召敷慮も又
 黙止よりば臣群臣の中て俊才明智の人を擇んで入唐させ如何も彼玉兎集と
 借得さるるを奏しやされぬ。天皇斜めを欣悦ひしを卿然るを針
 らぬと統りし其日の御拜儀畢て君帳内ハ入御ましくされ。諸卿も皆退出せ
 られり。斯て舎人親王六帰館の後熟朝廷の諸臣の中て普量衆ハ勝をも
 人を更彼と思勸れども是ごとと思ふ才子ハ無り多る。友ハ三笠山の禁小住居せ
 る一才子あり名と安部仲名と叫り其先祖ハ孝元天皇の皇子太彦命の末葉一
 品倉橋大呂の裔孫從五位中將大浦安部船守の二男なり。兄ハ安部好根とく生



女侍仲居

皇統巴圖魯會前篇一

九三



安倍の
仲磨の
詔
金馬
玉兔
集
需
唐
人
土
人

皇統巴圖魯會前篇一

九三

得行迹正一子且不孝なり其父船守の不興を受て家を追出され其行方を
弟仲六郎幼稚の時より智力万人勝るは學問を好み手跡を磨き又倭歌も心け
て十才の頃より詩賦歌を録一度讀むる書経及暗記せしむる事あり是れ依
て緒人安部の神童と稱せし仲六郎は天性至孝にて二親小事る更陸績吳粟の
如くされ船守深く是を愛す後年朝家の御大事事も預る事と未頼く思ひ不
孝の兄好根と追出せし二男仲六郎と嗣子と色多ふ仲六郎は十三才の年母死没父不
事て信孝行と尽しり十五才の年父船守錦部百良形が女石州と之る者と取交り
仲六郎妻と成り其年小船守病死され仲六郎父の名跡と嗣を朝廷に勤仕
しり舍人親王不斗仲六郎と妻と思ひ出され独膝と拍て賊我女部仲六郎有妻
然心まじり今朝庭の臣下とすは俊才英士といふ下道真備吉備安部仲六郎
兩人中限まじり彼仲六郎と入唐をせむは必其彼王允集と借得て歸る事とて使者と

以て仲六郎と召れり仲六郎頃日少く不快て家から電朝勤と怠りける事
病平復され明日朝参せんと沐浴せし所忽ち携政舍人親王より御使者
來り急に館へ來るなり其妻は何等の御用事と使者と曰道と親王の御
館へ参りたる舍人親王仲六郎と客殿へ招入御對面ありて仰々足下と招き
し私に要用あり當今新小室祚小郎せりの五穀成就万民豊饒の爲日本曆
を制せしめんるの歡慮あれも吾朝の曆を作るに元書かれは唐朝乃
帝の秘藏有金鳥玉兎集とり曆道乃書と借需んと思召彼書と借得て
る者撰今般の遺唐使と同船させて入唐せしめし事託しり然も唐帝
乃深く秘藏ある珍書あれは容易小吾朝借とせしと思召られたる方便を以
て彼書と寫し取て歸朝せしり余亦絶えしき術なり是極て難義の御使われ
は尋常の者にて、斐成就せん斐寛東か。故其使を任ざれ者と思ひたるは

智の人妻は若年の我御見出し小顔りも勅命と蒙る更又美目わ
 とも。然とも三千余里の波濤と隔一異國渡り。帝王の珍藏ある秘書と
 需る大義なれば。何時帰朝とるも預め期が。你曾て妊娠し己五
 月小及む。我を留守中小も身と慎み安く出産し。男子もあれ女子もあれ守
 言て家と守りしへ老少素り不定なり。我も先没とせむ。出生の子を我と
 思ひ成長と待家成嗣せしへと言せせられ。妻大に獲れ是も何ある御更
 とや。吾身斯懐胎しゆるお振捨て高麗唐山行めん。八世心難面御と
 く。傳聞なるる狂の大臣とやん。乞望て唐王へ御使を立燈其屋見とせられ忌
 た辱と被りて死没めしとや。されを重れ勅命なりとも。此御使へ御辞退か
 と流石女の心弱く涙さして練も。仲名呂頭歩振愚かる者の言更りか
 倫言ハ汗のどろ。出て再び返る布。六朝家の緒臣下妻に中より。抜出られて大切

ある御使と蒙る更家名の巽言身の面月何更り。是小勝る布。唐土道遠なりと
 りとも古より唐と無恙歸朝せ人故奉る小違あす。狂の大臣の如き不運の人
 稀なり。よや彼國にて横難小遭或ハ人謀れて異國の土と成とも。天命なり。如何
 せ。君忠のよ小家と捨身と捨妻すとも捨るが臣下の常なり。你とらも口で君乃
 臣妻をれ。俱お勸励をこと忠とも貞とも。何に。然小匹夫匹婦の。忠とも義
 とも弁を。抑留せんと。仲名呂妻あ。と。氣色と変て。叱。懲。妻も
 今。練。心。中。深。く。憂。わ。る。口。大。過。り。死。を。統。ふ。る。斯。て。仲。名。呂。雜。掌。草
 原。江。守。小。留。守。中。の。義。と。死。し。唐。の。准。備。な。か。り。攝。政。象。上。の。令。と。待。多。る。小。程。の。く
 遣。唐。大。使。從。四。位。下。多。治。比。真。人。縣。守。付。副。使。藤。原。宇。合。其。他。刑。官。録。事
 等。出。京。の。目。限。少。も。成。れ。仲。名。呂。も。妻。及。以。家。族。家。人。小。別。と。告。遣。唐。使
 小。從。以。都。と。發。足。と。西。國。へ。さ。り。筑。紫。太。宰。府。より。乘。船。し。纜。を。解。き。大。海

集出四艘の大船帆を揃てとまきせざる時、是靈龜二年六月申旬なり且説仲
 六君の舎兄安部好根八父の家と追出されて主寄べた方なり所、小湮浪と右
 なる、今般仲六君入唐せ、吏とて忽宗好針を案下出。平城上、三笠の
 郎舎ふりて門呼とて、雑掌草原江守何人、出でて思ふ思ふぬ
 不良人の好根も、吏由ある人の未、思ふも正、王家の嫡男、あれを為さ
 かく、玄関、緒、借、只、今、何、の、の、御、入、来、有、と、向、小、好、根、絆、と、慚、愧、の、色、を、銜、以、
 今更、深、對、する、面、目、も、あ、れ、も、我、若、氣、の、過、より、又、の、不、貞、と、受、浪、に、て、緒、酒、を、徑、
 廻、り、艱、難、の、身、も、迫、る、不、付、先、非、を、顧、後、悔、勝、て、嚙、も、又、も、あ、れ、又、小、謝、不、
 貞、と、免、され、ま、り、思、中、小、早、く、も、父、船、守、死、去、有、と、傳、ふ、大、不、力、と、落、存、生、
 中、小、不、貞、と、謝、一、日、片、時、た、り、と、孝、艱、せ、ざる、改、悔、と、も、其、終、か、弟、仲、六、君、た、り、ん、
 吏、も、何、と、後、日、思、ひ、歸、郷、の、念、と、思、断、西、國、方、の、團、司、身、と、寄、小、不、貞、の、

此度太宰府にて仲六君、面會、身の先非と謝、又の死、妨、ひ、且、何、更、遙、く、菟、紫、迄、
 下、り、と、向、小、彼、各、て、今、般、遣、唐、使、入、唐、有、小、付、學、問、の、為、小、船、と、願、て、入、唐、し、
 たり。彼、上、小、留、學、を、れ、を、滞、田、何、年、ま、で、と、時、を、定、め、古、郷、小、年、若、き、妻、又、を、
 江、守、以、下、召、使、の、男、女、と、お、て、慕、り、江、守、至、り、我、兄、今、仕、官、去、り、と、い、ふ、小、非、
 ん、を、是、より、古、郷、上、り、江、守、と、心、を、合、て、我、歸、朝、す、追、妻、の、後、見、を、わ、り、免、れ、據、
 ち、く、頼、り、也、我、も、又、の、靈、前、に、て、せ、めて、不、孝、の、謝、も、せ、ま、り、な、れ、也、仲、六、君、頼、を、幸、に、
 其、初、小、應、じ、て、杖、を、か、ち、身、を、寄、團、司、小、仲、六、君、頼、の、由、と、結、り、暇、を、乞、て、去、り、ま、れ、
 と、年、吉、巧、小、言、ま、れ、江、守、信、一、く、思、ひ、も、否、も、言、か、ず、主、人、の、御、頼、有、義、小、い、
 主、人、の、歸、朝、の、追、御、後、見、か、り、む、る、確、と、十、年、小、好、根、仕、は、ま、り、た、と、心、中、小、
 独、笑、其、休、脚、と、魚、若、州、中、各、對、面、家、内、の、者、小、飯、伏、き、入、り、鮮、と、舊、笑、
 温、柔、の、体、小、と、事、我、意、の、所、作、か、く、伎、幼、の、小、吏、を、若、州、江、守、と、商、議、

さも信まち小こめてかかくれれ若わ艸し江え守しも始は心こ油あぶら断たく好よ根ねが心こ術じゆつを疑うたがひ
 危あやぶぶたたまま小こ思しの外が忠ちゆう実じつの行ぎやう跡あとを見みて。備そなへま実じつ小こ先せん非ひと改あらためめ廉れん直ちゆうの令あ成せい
 せせ一いああめめ斯すてて八はち苗めう守し中ちゆうの後のち見みと頼たのまれれよよのの偽いつはりも偽いつはりめめとと思おもひひ思おもひひ思おもひひ思おもひひ
 小こ其その年としも暮くれ近ちかくく若わ艸し八はち月げつ満まんて平へい産さん一い玉たまの如ごとき男おとこ子こななるる多おほく夏なつ愛あい
 中ちゆうのの悦よろこびび勇ゆう々々満まん月げつ丸まると号ごう掌てのひらの玉たまと愛あい慕ぼ心こころと荒あれれ風かぜ小こああてて守し守し目め多おほく
 うち其その年としも程ほどめめ暮くれ明あととのの雲う龍りゆう二に年ねんの春はるとめめ満まん月げつ丸まる追お追お肥ひままいと愛あい
 ららくくああるる成なり入いるる小こ付つ母はは若わ艸し八はち早はやく夫おとこ小こ見みせせままりりく其その歸き朝あさももとと且かつ暮くれ待まち
 ここれれ一い日にちと送おくるるも三さん秋あきと雲う想むねとわわりり多おほく好よ根ねハハ若わ艸しが衆しゆう小こ勝かちして艶あや色いろ
 かる小こ魂たまを奪うばひひおおれれ我わがのの花はなおおせせままと頓とん小こ戀こ暮くれの欲よく大おほ胸むねを焦こがせせるる若わ艸し
 色いろ小こを露あららすすも満まん月げつ丸まると我わが子このの下したく偽いつはりり愛あい若わ艸し心こころと悦よろこむむせんせんとと巧たく々々
 皇統記圖會前篇卷之二畢

名古屋
 大曾根 矢野平兵衛藏版之内佛書目

宗門無盡燈論	二冊	法華經	八冊	壽量品經	一冊
槐安國語	五冊	同要品	一冊	般若心經	一冊
同骨董稿	二冊	般若理趣分	一冊	同訓讀	一冊
禪門寶訓	二冊	金剛般若波羅蜜經	一冊	諸陀羅尼	一冊
禪林句集	二冊	首楞嚴神咒	一冊	地藏經訓讀	一冊
四部之錄	一冊	三經合本	一冊	御嶽山大權現經	一冊
毒語註心經	一冊	觀音普門品	一冊	大道神祇大祓	一冊
碧巖集	十冊	同訓讀	一冊	神道中臣祓	一冊
六祖壇經	一冊	半僧坊大權現經	一冊	同六根祓	一冊

